

仰使者廣元召參州使大夫屬重能仰含此旨、重能陳云參州者故左馬頭殿賢息也。被存御舍弟儀之條勿論也。隨而去元曆元年秋之比爲平氏征伐御使被上洛之時以舍弟範頼遣西海追討使之由戴御文御奏聞之間所被戴其趣於官符也全非自由之儀云云其後無被仰出旨重能退下告事由於參州參州周章云云、

〔三内口決〕一姓朝臣事

源朝臣藤原朝臣ト書戴候事ハ、位署ヲ書時之事候、譬法樂歌ニ、

冬日同侍大神宮社壇詠百首和歌

正四位下行右近衛權中將源朝臣具房

此類候面向之時ハ、姓戸ヲ書戴候、内々之時ハ、一向以略儀位ト戸ト除之候、

又名字朝臣ハ、四位雲客之時如此候是ハ人ハ書之、自ラハ不書之候、

〔多々良問答三〕一戸事爵をせば朝臣に不限也、宿禰連眞人も實名の下に可稱之候哉、

本字、氏骨
之候、勅撰作者ノ書様ハ、朝臣ノ外ハ、四品ノ後モ、某宿禰某眞人ナド、必稱之候、五位ノ程ハ、名字ノ下ニハ、不稱

〔多々良問答四〕一典侍藤原直子朝臣、典侍藤原よるかの朝臣など、候は女房の事候哉、

〔多々良問答二〕一正六位上行左衛門少尉平朝臣々々事

六位ながら姓につけて朝臣と戸を書事の不審也、姓に付て戸を書事昔は六位七位迄も許之然

處後鳥羽院の時代以來禁制也、其比は五位にも堅被制之、四位は書之、右之位署は古體を摸歟云

云、是又子細可請尊意也、

〔故實拾要八〕戸書

是戸書トハ、朝臣真人宿禰ナド、書コトヲ戸書ト云、也是ハ位署ヲ書時ノ事也、公卿ハ姓ト實名

ヲ書戴也、四品ノ輩ハ、朝臣真人宿禰ナド書也、○中

略